

令和六年度養正会入会式挨拶

本日は、工藤憲治会長、日野貴博副会長、篠原紀昭顧問三名の同窓会役員の皆様をお迎えして、令和6年度愛媛県立小松高等学校養正会入会式が執り行えますことを大変うれしく思います。また、日頃は本校の教育活動に対し、物心両面からの御支援を賜り、まことにありがとうございます。この場を借りて、御礼申し上げます。

本校は、小松町立実用女学校の創設以来117年、小松高等学校76年の歳月が流れ、本校の卒業生が全国各地で活躍しております。小松町立実用女学校、子安中学校、子安高等学校などを加えた同窓生は、あなたたちを含めると20,102人に上ります。あなた方で二万人を超えることになります。

コロナ禍の中で、自粛や縮小開催を余儀なくされていた養正会の本部総会や支部総会も昨年度は通常通り開催され、令和元年度と二年度に教頭をしていた私は、養正会の皆様に甘えてしまい、昨年度、他校勤務にも関わらず、ずうずうしく本部総会と松山支部総会に出席させていただきました。今年度は、小松高校職員に復帰したので、本部総会、松山支部総会、関西支部総会に出席いたしましたが、関東支部総会は台風十号のために出席叶わず、来年度ぜひ出席したいと考えています。

昨年度の話に戻りますが、本校職員でもない私を本部総会や支部総会に向かわせたのは、何よりも養正会の皆様の優しさと温かさのせいです。転勤してからも時折励ましのメールをくださり、再び戻ったときには「おかえりなさい」と気持ちよく迎え入れてくださいました。養正会は、なんて素敵で心強い同窓会だと心底思いました。皆さんもこれからは養正会の一員として、先輩に守られるとともに、自分を磨き成長しながら次に続く後輩を温かく迎え入れることができる人になってください。

さて、三月一日にいよいよ皆さんは、卒業式を迎えられます。今どのような気持ちですか。未来に踏み出す向かう喜びと希望、友達、先生と別れる寂しさ、新たな出会いへの期待、やり残したことへの心残り・・・いくつもの思いが交差しているのではないのでしょうか。

同窓生の方々は、本校卒業を誇りに思っており、この小松高校を大切に思い続けています。そして、同窓生として皆さんを心から歓迎してくれます。あなた方もこれから、全国に広がる養正会の一員として、本校を見守ってください。

そして、この誇り高き小松高校の名のもとに、それぞれの道で力強く羽ばたいてください。皆さんの未来が輝かしいものであることを心より願っています。

最後になりましたが、養正会のますますの発展を祈念いたしまして、令和6年度養正会入会式の挨拶とさせていただきます。本日は、おめでとうございます。

令和7年2月27日

愛媛県立小松高等学校

校長 村井 浩昭